

氏名	辻本 健	部署	看護学科	職名	助教
研究分野	小児看護学				
学位	修士(看護学)				
学歴	自治医科大学大学院看護学研究科				
経歴	2018年埼玉県立大学保健医療福祉学部助教				
所属学会(役職)	日本小児がん看護学会、日本小児看護学会、日本小児保健協会				

【2019年度実績】

1. 研究業績						
(1) 著作						
	著作の名称	単・共	ISBN	発行所、全ページ数	著者、編者名	発行等年月
1	該当なし					
2						
3						
(2) 論文						
	論文の名称	単・共	査読	雑誌名、巻(号)、開始-終了ページ	著者、編者名	発表等年月
1	小児がん患児・家族への告知における看護実践の現状と課題	単著	あり	小児がん看護,14(1),18-27.	辻本 健	2019.9
2						
3						
(3) 学会発表						
	学会発表の演題	単・共		学会名、開催都市	発表者(発表者は○印)	発表等年月
1	Anxiety and Difficulties Experienced by Parents of Childhood Cancer Survivors Receiving Long-term Follow-up Outpatient Care	共同		International Nursing Research Conference of World Academy of Nursing Science, Tokyo	○Ken Tsujimoto, Yumi Yokoyama	2020.3
2	子どものセルフケア能力・親のケア能力を高める看護援助に関する文献検討	共同		小児保健研究、東京	○長谷美智子, 櫻井育穂, 辻本健, 添田啓子	2019.5
3	オレムセルフケア不足理論を取り入れた看護記録監査表の改定による看護師の認識の変化	共同		日本小児看護学会学術集会, 札幌	○田村佳士枝, 添田啓子, 櫻井育穂, 望月浩江, 辻本健, 村山奈津季, 古谷佳由理, 岡崎智美, 株崎雅子, 近藤美和子, 久保良子	2019.8
(4) その他						
	名称	単・共		発表場所等	発表者(発表者は○印)	発表等年月
1	該当なし					
2						
3						
2. 競争的資金等の研究						
	競争的資金等の名称			研究名	研究代表者・研究分担者の別	研究期間
1	日本学術振興会 科学研究費助成事業 若手研究			退院後の小児がん患児をもつ両親のレジリエンスの概念構築	研究代表者	2019.4~2022.3
2	日本学術振興会 科学研究費助成事業 基盤研究(C)			子どものセルフケア、親のケア能力獲得を支援する看護師の教育指導力の定着・評価	研究分担者	2019.4~2022.3
3						

3. 教育業績				
(1) 講義				
	講義の名称	科目責任者	コマ数	概要(教育内容・方法等において工夫した点)
1	小児看護学Ⅰ		0	講義担当補助として参加した。レポート評価やワークシート・レスポンスカードのコメントを行い教育に参画した。
2	小児看護学Ⅱ		1	血液腫瘍疾患をもつ子どもと家族の看護を担当した。主な血液腫瘍疾患の症状、観察ポイント、治療方法、子どもと家族への看護の必要性や方法を理解できるよう動画や紙芝居、絵本を用いてイメージできるように講義を行った。
3	看護学入門		5	看護学科の特徴(小児看護学)、グループワークに関する講義を担当した。看護学科の特徴では、埼玉県立大学で学ぶ小児看護学の楽しさややりがい、オレム理論について図を示しながら講義を行った。グループワークでは、スムーズなグループワークが出来るよう参画した。レポート評価やワークシート・レスポンスカードのコメントを行い教育に参画した。
4	子どもの保健		7	良くみられる子どもの症状への理解と対応、与薬に関する講義を担当した。動画や物品を用いて学生がイメージしやすいように講義を行った。また、演習6コマを担当した。現場で実践する内容を中心にわかりやすく実施するためのポイントをグループワーク形式も交えながら行った。
(2) 演習				
	演習の名称	科目責任者	コマ数	概要(教育内容・方法等において工夫した点)
1	小児看護学Ⅲ		15	3グループ(学生22名)を担当し、グループ討議、学習を通し、学生が川崎病を発症した子どもと家族の看護の必要性・方向性をグループ討議の中から見出せるように支援を行った。
2	小児看護学Ⅳ		6	「輸液」において演習の主担当を行った。演習物品の準備、整備、演習室の設営を行った。学生が事例の子どもと家族への小児看護技術を主体的に習得できるように支援した。
3				
(3) 実習				
	実習の名称	科目責任者	期間	概要(教育内容・方法等において工夫した点)
1	小児看護学実習		2019.8.19～8.29 2019.10.28～12.19	(学生23名 2単位90時間×5クール)を担当し、子どもの安全を守り、学生が小児看護学の目的目標に沿った看護を展開できるよう、臨床指導者と連携を図りながら指導を行った。個々の学生に合わせた実習指導を臨床指導者と連携を図りながら行った。
2	総合実習		2019.7.8～7.26	学生5名を担当し、実習前の事前ゼミにおいて、学生個々が探求したい課題を明確にし、総合実習計画書を作成できるよう指導した。実習では、子どもの安全を守り、かつ個々の学生が課題とする看護を実施し、看護の効果を確認できるように臨床指導者と連携を図りながら支援を行った。
3	IPW実習		2019.9.30～10.3	1施設(学生6名)を担当し、円滑に実習が進むように調整を行い、指導した。
(4) 論文指導				
	対象	期間	主指導・副指導の別及び指導人数	
1	卒業研究			副指導 2名
2				
3				
(5) その他				
	名称	期間	概要(教育内容・方法等において工夫した点)	
1	該当なし			
2				
3				

4. 社会貢献活動			
(1) 講演会、研修会、公開講座等の講師			
	講演会、研修会、公開講座等の名称	主催	講演、研修、公開講座等のテーマ
1	オレム推進連絡会議	埼玉県立大学	オレムの視点でのカンファレンス実施状況と実施計画/ 結果と課題 / 振り返り
2	オレム全体ワークショップ	埼玉県立大学	子どもと家族の力をのばす看護を共有しよう。～部署カンファレンスの成果発表～
3	成人移行期支援 フォローアップ講座 運営補助	思春期看護学研究会	「対象者中心の成人移行期支援」
開催年月			
2019.6.9.11.1.2			
2019.2			
2019.11			
(2) 国、自治体、学術団体等における委員等			
	国、自治体、学術団体等の名称	委員等の名称	任期
1			
2			
3			
(3) ジャーナリズムでの発言			
	メディア等の名称	内容	年月
1	該当なし		
2			
3			
(4) その他			
	項目	相手方等	内容
1	該当なし		
2			
3			
5. 学内運営			
	項目	内容	期間
1	全学的委員会及びセンター業務等	埼玉県立大学保健医療福祉科学学会委員(総務委員)	2019.4～2020.3
2			
3			
6. 受賞(研究、教育、社会貢献活動に関するもの)			
	受賞名	主催	受賞年月
1	該当なし		
7. 特許の取得			
	特許名	特許番号	登録年月
1	該当なし		
8. 特記事項			